

フレーベル傳雜感

倉 橋 惣 三

一
今月はフレーベル先生誕生の月に當る。楣間の肖像に對して、そこはかとなく、いろ／＼のことを思ふ。

世に興味の最も深きものは、恐らくは偉人の生涯である。素より或る意味に於てすれば、必ずしも世に所謂偉人に限らず。すべての人の生涯が皆意味の淺からぬものであるけれども、その思想、その事業に於て既に吾人の興味を促すもの多大なる偉人の生涯に於ては、その偉大なる思想と事業との醸造場として、そこに汲めども／＼盡き難き興味がある。蓋し、すべてこの偉人の事業と思想とは、その生涯と離し考ふべからざる關係を有するものであつて、たゞ抽象したる一個の思想、抜き書きしたる一聯の事業記録として觀察しては、

到底其の眞想を捕捉することは出来ない。思想と事業とは假令ば生涯の地布の上に刺繡せられたる模様にも似たものである。その錦糸絹絲の色彩も地布あつての花模様である。

しかも世には、その生涯と思想事業との錯綜の密度が比較的粗なる場合も無いではない。前篇の其の傳記と後篇の其の思想とを、別々に取り離し讀むも、その各々を理解するに餘り難からぬものもある。たゞフレーベルに於ては、兩者の錯綜最も緻密なるものがある。是に於て、先づ彼の事業を聞き、彼の思想を學び、後その生涯を研究するに及んで、其の事業と思想とに對する理解の初めて明瞭に且つ切實に徹底するを覺える。此の意味に於てフレーベル傳は、其の師ベスタロツチの傳と相並んで、教育紀傳中、恐らく最も多趣多味な

るもの、雙壁である。

二

フレーベルがツリーケンギヤの森林地方の生れることが、既に意味深いことである。彼の思想は岩石巍峨たる高山地帯の態を帯ぶるものではない。また天空快濶たゞ／＼明るく打ち開けたる海岸地方の香を帯ぶるものでもない。實に森林的である。大いなる森林地方のすべての風物と等しく、深玄にして神秘的なる趣を具へ、且つ清爽の中に多少の濕度を含んで居るのが彼の世界觀人生觀である。従つてその教育説も亦、實際的といふよりも哲學的に、科學的といふよりも詩的である。此兩面はフレーベルの教育説を研究するもの、觀過すべからざる點である。

次にフレーベルの『發達』に關する理解と興趣とも亦、森林に生れて森林に成長した彼の幼時の賜である。フレーベルの教育上の新學説も新貢獻も、一つにその根底が、『發達』の現象に對する彼の

領會に基づくことは、苟くも幼稚園教育の本質に就て多少の知識を有するもの、皆熟知せる處である。若しフレーベルは如何なる人であつたかといふ問に對して、最も直截に最適切なる答を與へんとすれば、フレーベルは『發達』の眞意義に最強く憧憬した人であると言つてもよい位である。而してフレーベルの此の『發達』に對する理解が植物發達より導かれたことも人の知る處である。——此の天才が植物の萌芽を見ること稀なる都會兒童でなかつたことは、人類の非常なる幸であつた。

三

フレーベルが生後九ヶ月にして母に逝かれ、四歳までいぢらしい片親兒であつたこと、四歳の時よそから來られた第二の母との親愛が長く續かないで、こんな幼い年頃から淋しい孤獨の生活に慣れざるを得なかつたことは、今此の肖像に對してだも、追憶するに氣の毒なことである。しかも此の事實が亦フレーベルの思想の上に二つの影響

を及びして居る。

その一つは、幼児期の教育の最貴重なること、殊に幼きものに幸なる喜びの侶を與へなければならぬといふことを、己が幼時にひきくらべて殊に切實に泌々とフレーベルに感じさせたことである此の點からは、彼の自身の不幸が後の幼兒の幸福になつたとも言へよう。

その二つは、幼時からの孤獨的習慣が、其の一生の性となつて、冥想沈思の癖が聊か度を過ぎるまゝになつたことがある。フレーベルの教育説がただ哲學的なることは前にも述べたが、彼の學說の中の、惜むべき論理詰めの缺點と及び象徴の弊とは、彼れ自らがその自傳の中に告白せる通り、幼時の孤獨癖が大に與つて影響して居るのである。牧師として人の子を教ふるに多忙なりし彼の父は、何故もつとその家庭に於て我が子の侶となつて呉れなかつたか。若しまた變更し得べき運命ならば、彼の生母は何故もつく長く健康で居て呉れなかつ

たか。將たまた、彼の第二の母は何故その初めの慈愛を維持して呉れなかつたか。要するに幼きフレーベルが、その子供さを、自らもつと充分に味ひ樂しみ得なかつたことは、彼の爲には勿論、後世の爲に少からぬ損害であつたのである。

フレーベルは子供を愛し、またよく之れを理解して居た。少くも兒童研究の必要と趣味との普及が、まだ今日の如くでなかつた一世紀前に於て、稀有なる兒童の友であつたのである。しかも、子供を子供として教育せよといふ彼れの天才的唱道に拘はらず、時に自ら非兒童的なる矛盾に陥ることのあつた彼の弊は、疾くより淋しき孤兒となつたフレーベルの冥想癖によるものであつた。總ての事に善き意味を發見せんことを希ふ吾々も亦、此の一事にはたゞ遺憾を禁じ難いのである。しかも彼の思想と生涯との錯綜を考究せんとするものには、輕視することの出來ない一資料である。

四

十五歳の時 始めて従事した職業が森林内の林業事務であつたこと、引きついで種々に轉じた職業が多く戸外的業務であつたことは、フレーベルの自然詩人的特色を深くするに大關係のあつたことである。

フレーベルは、人間の趣味傾向の最も強く教養せらるべき少年期青年期を通じて、將來教育者となるように教えられたことは一度もなかつたのである。彼の學んだことは植物學であつた。礦物學であつた。土地測量の術であつた。その相手とする處は樹木であつた。鑽石であつた。而して土地であつた。彼が教育者になるであらうといふことは、運命の外は彼自らさへも思ひもせぬ處であつたのである。しかも運命は誰れよりも最も賢き最も遠き慮をフレーベルの爲に藏して居たのである。フレーベルの教育説が、コメニウス以來の教育上の自然派の成熟大成せるものであつて、之れが歐洲教育思潮の當然の流域なりしことは、教育史

を読むもの、皆知る處である。即ち、フレーベルの教育説の根底、輪劃兩つながらに著しくあらはれて居る自然派的特色は、自然に倣へ、自然を學べ、而して自然を與へよといふ當時の教育思潮の感化の與つて力あることも勿論否むべくもないが、運命はフレーベルをして此の教育説を大成せしむる爲に、一見無益なりしが如き二十三年の準備を與へたのである。

フレーベルの目は自然を見ることに慣らされたのである。その手は自然を培養することを教へられたのである。幼稚園、幼稚園。實に幼稚園は此の目と此の手で開拓せられたのである。代數學で方程式を解く様に、人の運命の方程式で x を自由に變じて其の y を見ることが出来るならば、人はフレーベルの生涯の初めの二十三年間を x として之れを色々に變じて見るがよい。 y を幼稚園[▲]たらしむる爲に、之れ以上適當な x があるであらうか。幼兒は草の芽に喩ふべし、教育者は其の

培養者に喩ふべし。その教育の場所は之れを園と呼ぶべしといふガルテン(園)主義が、世界の教育者中恐らく最よく自然を理解し最深く自然を愛したフレーベルによつて初めて唱導せられたのは、實に一元一次方程式的事實であつたのである。

五

青年フレーベルは、その生涯の方向に就て甚だしく煩悶した。煩悶々々、迷ふに疲れた煩悶者の足は、建築師にでもなろうかといふあてどのないあてどを以て、フランクフルトへ到着したのである。

吾人はフレーベル傳を思ふて此の一節に至る毎に人の運命の危きが如くにして定かに、定かなるべきも豫め期し難きを感じざるを得ないのである。蓋し此の時を中心とした前後に於けるフレーベル傳の一節は、曲折多き彼れの生涯中、殊に甚だしく觀客の胸の鼓動をして高からしむる一をなすものである。

しかも茲には之を詳説する暇がない。兎に角くフレーベルは建築師とならずして教師となつたのである。而して迷へる者は茲に自己の立脚地を見出し得たのである。煩悶者は心の安住を得たのである。「魚は水を得、鳥は空氣を得」たのである。

而してフランクフルトに於けるフレーベルの生涯の此の一轉化の原因を、一つに當時フレーベルに教師たることを推奨したグルーナの忠告にのみ歸するは未だその眞想を得ないものである。

此の時二十三歳のフレーベルは、すべての眞摯なる青年の一度は經驗すべき内心の不安をもつて居た。即ちフレーベルの當時の煩悶は、たゞに定職の無いといふ、功利的煩悶ではなくて、如何なる事業が人の一生として眞に努力の價値あることであろうかといふ、内面的煩悶であつたのである。フレーベルの此の不安に對して、林業も土地測量も満足を得なかつたのである。

フランクフルトへ着く前の旅中のことであつ

た。同行の友人の寫眞帖に、フレーベルは斯ういふ句を書きつけて居る

『君は人類にバンを與へよ。余は人類に彼等自身を與へんかな』

今や青年フレーベルの心は實業に其の眞満足を得ずして、精神的教化の事業に傾きつゝあるのである。フランクフルトへ着いた後、建築師となるべき就職口を求めて居る間にも屢々次のようなことを思つた。

『自分は建築業をして、果して人生に價値ある仕事が出来らるであらうか。自分の一生を人類の教化と向上の爲に使ふことが出来るだらうか』

之れ丈の事實から見ても、當時のフレーベルの心中は大低察することが出来る。斯ういふ心を持つて居る魚には教育が水である筈である。斯ういふ心を持つて居る鳥には教育が其の空氣である筈である。フレーベルは自分の索むる處を自ら識

らなかつたのである。しかも自分の索むる處を自ら得たのである。グルナーはたい魚に水を與へ鳥に空氣を與へたに過ぎない。

フレーベルが斯くして突然(外見)教育事業に入つたことを人々は偶然の出來事だといふ。しかもフレーベルには常に生涯が事業である。二十三歳の夏の始めフランクフルトに初めて蕾を結んだフレーベルの教育事業は、未知無名の植物として、ツーンギヤの森の中に必要なる成育を遂げて居たのである。

六

ベスタロツチから受けたフレーベルの思想上の感化に就ては、特に今更言ふに及ばない。又いろいろの場所、いろいろの事情の下に教育者としての實習を重ねて行つた教師フレーベルの自修發達も更めて説くを要しない。グリースハイム。ケイルハウ。ブランケンブルグ。窮乏。不幸。誤解。迫害一々迎る要もあるまい。之等は皆前半生の間に緒

を作つた思想と事業との繩が段々に太くなりつゝ、色々に糾はれたに外ならぬのである。

たゞもう一つ、吾人に考察の興味を促すものはフレーベルの從軍である。

如何なる意味に考へても此の一年間は損害の一年間であつた。劍が血を求むる此の一年間が、幼兒の父となるべきフレーベルに何等積極的の効果を與へ得る筈はなかつたのである。しかしフレーベルの生涯は此の空虚空費の如き一節に於ても彼の事業の爲に多大の意味を有するものとなつたのである。即ちフレーベルは此の從軍中に、ランゲタールを得た。パウエルを得た。ミツテントルフも亦此の時に得たのである。之等の人々がフレーベルの教育事業に如何に重大なる好關係を有するかは人の皆知る處である。殊にミツテンドルフの如きに至つてはフレーベルの事業の半身と言つてもよい位である。フレーベルは戰爭に出て勳章を得なかつたが、事業の伴侶を得た。普魯西亞軍に

屬したフレーベルはその生涯と事業との錯綜の運命に於ては偉大なる勝利者であつたのである。

七

併しながら、フレーベルの事業は只其の生涯によりてつくり上げられたのみのものでは勿論ない。フレーベルはその生涯を有する前に、フレーベルとして生れて居たのである。教育上の天才者としてフレーベルの偉大。および其の波瀾多き生涯殊に後半生の障碍多き苦闘を貫き通した強き自信の人としてのフレーベルの雄偉。之れこそ彼の事業の椎骨であつたのである。

今日に於てフレーベルを見れば、教育史上の大成功者である。しかも其の當時に於て彼を見たものは恐らく誰れも成功者を以て視なかつたのであろう。此の不成功の生涯をして、實は眞の成功の生涯であらしめたものは、一つにその天才と自信とである。見よ彼の肖像は其の眉宇の間に之れを證明して居るのである。

○主客問答

リーベンスタインの片山里に、村人から「馬鹿爺さん」と嘲り呼ばれながら子供達と遊んで居た、天才と自信とを藏する此の「大愚」こそ、フレーベルが眞に幼児教育上の第一人たることを得た意味

深き教訓なのである。而して之れは経験からは得られない。學問からは勿論得られない。心である。たい一つに心である。その生涯の總和を、衷心より幼兒のために獻げることの出來た其の心である。

ツーリンギヤに生れたものは澤山ある。少年期青年期を林野の業務に過したものは澤山ある。自然に對して科學的理解及び詩的感興を養ひ得たものも澤山ある。——斯くの如くして、フレーベルと同じ生涯が必ずしもフレーベルを生むものではない。之れに反して、彼れの全生涯の經過をして全然別途ならしむるも、フレーベルは恐らく矢張りフレーベルであつたであらう。たゞ史上事實としてのフレーベルの事業は、上述の如く周到に其の生涯から形づくられたのである。

客「今日は一日晝園を拜見いたし度いと思ひます。どうぞお許し下さい。」

主「よくおいで下さいました。どうぞ御ゆるり御覽下さいまし。」

客「どういふ順に拜見することが出來ませう。」

主「どうか御自由に、……幼兒は只今みんな遊園に出て居りますか。」

客「お廣いお庭で御座いますねえ。幼兒の數が大層少いようで御座いますが……。」

主「はい、今日は上の組が二組とも散歩に出まして、こゝに遊んで居りますのは残りの半分で御座います。」

客「今朝程から一度も保育室へお入れになりませんようですが、保育をなさる處は何時拜見出來ませうか。」

主「今日はこんなに天氣がよく御座いますから、一日外で遊ばせて置く積りで居ります。」

客「ハア、左様ですか。」

主「それに今日は幼兒の數が少くなつて居りますから遊ぶのに一層都合がよろしう御座います。」

客「ナル程。天氣の時は毎日斯ういふ風にしておいでですか。」

主「氣のい候、間は、なるべく左様し度いと思つて居ります。」

客「二三人室内に入つて居りますのは、どう致したのでしょうか。」